

第四十六回「全日本中学生水の作文コンクール」青森県審査入賞作品集

目次

青森県優秀賞5編

水の大切さ	私立青森明の星中学校	三年	堀内 結衣	1
常に一緒にいてくれる水	青森市立甲田中学校	三年	千葉 麗陽菜	2
水質の大切さ	八戸市立是川中学校	三年	小林 千花	3
向いていないかも、海外暮らし	八戸市立是川中学校	二年	木村 真緒	4
気遣いで変わる森の環境	八戸市立是川中学校	二年	中居 れいな	5

青森県入選10編

水への思い	私立青森明の星中学校	三年	工藤 星空	6
命の大切さ	私立青森明の星中学校	三年	杉木 聖奈	7
水の大切さ	私立青森明の星中学校	三年	野坂 美心	8
ガ―ナと水	私立青森明の星中学校	三年	松山 明伽音	9
清潔な水の大切さ	八戸市立是川中学校	三年	佐々木 陽大	10
大切な資源の水	八戸市立是川中学校	三年	中居 みやび	11
水が教えてくれたこと	八戸市立是川中学校	三年	前田 美咲	12
水とは何か	八戸市立是川中学校	三年	若松 来実	13
水の重要性	八戸市立是川中学校	二年	水合 凌徠	14
水の惑星	八戸市立是川中学校	二年	風張 優吾	15

【水の大切さ】

青森県 青森明の星中学校 三年 堀内 結衣

私は、今まで水不足なんて大したことだと思っていなかった。水なんて海や川などにたくさんあるし、何がそこまで問題なのだろうと思っていました。しかし、ユニセフについて調べてみると、私が今まで思っていたことよりもはるかに大変なことが起きているということを知りました。人間一人当たり最低必要とされている水の量は一日約五十リットルといえます。そして世界では、地球温暖化の悪化などにより、一日のほとんどを歩くのに費やし、水は約コップ二杯分しか得られない人もいます。

今、この瞬間にも、アジアやアフリカなどでは安全な飲料水を確保できない人々がいるのです。その数はおよそ十二億とされ、世界の人口の約五人に一人が水が足りない状況となっています。また、不衛生な水しか得られず、毎日六千人の子どもたちが亡くなっているのも事実です。

ではどうすれば、このような人々が減るのでしょうか？

具体的に私ができることが何かを調べていると、日本のある企業がアジア、中東、アフリカなどの水不足の地域で貢献活動をしているということを知りました。日本の水道技術を、それらの地域に伝え、水道や浄水場などの施設を作っているそうです。それによって、一日何千万トンもの真水を作り出し、生活用水や飲料用水として使われています。日本の支援により、少しずつですが、水に関わる環境が整ってきていると感じています。そして、私はまだ中学生なので、現地に行つて彼らを助けることはできないけれど、ユニセフへの募金をして、このような人々のためになることをしたいと思っています。

たとえば百円の募金は、およそ八十円がユニセフ本部を通じて、厳しい環境に暮らす世界の子どもたちのために使われます。そしておよそ二十円は、日本国内で日本の子どもの課題を解決するために政府などに働かせる活動や、ユニセフへの理解や支援の輪を広げるための活動などに使われています。

私の学校では、毎年海の公園のゴミ拾いをします。ゴミをトングで袋がいっぱいになるまで集めます。そして、ゴミが満杯になると、すぐやりがいを感じます。

小さな活動も、決して小さなことではなくなると思います。例えば、歯磨きの時に水を流しっぱなしにしないことや、生活用水の節水を行ったり、生活排水を少しでも減らし、きれいにする努力を行ったりすることの大切さをあらためて考えさせられました。

同じ『水の惑星』に住む人々が平等にその恩恵を受けることが出来るような社会の実現のためにも、これからも私は環境問題に興味を持ち続け、水を守るために自分にできる小さなことをやり続けようと思っています。いたる所で目にできる水は、生活していくためには、欠かせないものです。水は、衣食住の全ての生活に必要です。衣は洗濯、食は料理、住は農業と幅広く使っています。世界中の人が水を使うのにも限りがあり、水は無限ではありません。私たちの生活に水が届くまで、いろんな作業があります。安全な水が私たちに届くと、皆が笑顔になります。人間、動物、植物が水に支えられて生きていられています。

ですが、世界中の人が日本の水を使っているわけでもありません。日本の水を世界の人に使ってもらうため、知ってもらうためにも、私たち日本人が、世界中の人の命を救うためにできることを実施したいと思っています。

最後に、今できることは、水を大切に使うことだと思います。一人一人が水を正しく使うことを意識し、これからの生活でも、水を大切に使うことだと思います。

【常に一緒にいてくれる水】 青森県

青森市立甲田中学校 三年 千葉 麗陽菜

小学生の頃、家族で紅葉を見に行った時があった。紅葉を見るために山を登っていると、途中で川の流れる音が聞こえた。川はとても綺麗で、紅葉の木々と流れていた。川が綺麗だから、生き生きとした鮮やかな紅葉になっているんだなと感じた。錦の木々はずっと奥まで続いて、山頂へ行くとき赤と黄色が混ざり合った美しい景色が広がっていた。

また、祖母から聞いた話で心に残っていることがある。祖母は昔、黒石市の二庄内という木に囲まれた人口の少ない村に住んでいたと言う。そこには川が流れていて、食料となる蟹を捕ったり、その水を汲んで生活に使っていたそうだ。今から約三十年ほど前に村を壊して、ダムを造ったことに私は驚いた。わざわざ村を壊してダムを造り、人々へ水を届けていることを考えると、水はそれほど大切なのだと感ずることができた。祖母の思い出の場所は今、みんなを支えるダムとなり、その周りには美しい緑の森が笑っているように思えた。

中学校の国語の授業で、畠山重篤さんの説明文を学習し、初めて「森は海の恋人」という言葉を知った。森の木々を大切にすることで、森から川を通じて栄養素が海に届き、海の生き物がそれを取り入れて成長する。川の流域に住む人も海の恵みで生きる人も一緒に植林に励み、東日本大震災で傷ついた自然を蘇らせた。私は森と川、海のつながりを考えたことはあまりなかったのだが、授業の回が進むにつれ、この言葉の重要性がわかった。水を巡って、すべての自然が同じ空気中に共存しているのだ。紅葉の美しさも水の美しさがあったのではないかと私は考えた。

恵みの水として、私は雨も大好きだ。雨が降ったらすぐに扉を開けて、傘を持って外に出る。庭に植えた植物が雨に当たり、嬉しそうにしているのを見ると、私も嬉しくなる。一滴一滴の雨を見て、どうやって空から降ってきているのだろうと調べたこともあった。海の水が蒸発して降っていると知ると、いつの間にか海まで好きになり、海を汚すことはできない

と思った。

私たちの生活になくってはならない水。水とのつきあいをするときには、どんなことを考えていけばよいのか。地勢・地形・気候・雨や雪の多い環境であるかなどを判断し、自分が住んでいる地域に合わせる必要がある。そう。山林や昔に住んでいた家々、田畑を捨て、ダムを造ることも仕方ない場合もある。しかし、身近にある水を使い回して環境を守ることでもあるかもしれない。私たちの安全・安心な暮らしは上下水道の整備・管理という、多大な人々の尽力の上に成り立っているが、一人ひとりが水の大切さを考えた行動をしなければならぬと思う。

水を汚さないということもそうだが、手を洗う時に、無駄に水を出さずに止めることは、水の環境を守っていることにつながるのではないだろうか。例えば学校では、牛乳パックの再利用のために、係の人がすぐ時は、一個一個、水道の蛇口を閉めて、無駄に水を流さないようにしている。普段の生活でも、飲む分だけ水を出して飲むことは子供でもできると思う。私の家では、夏や暖かい時は、お風呂の水を無駄に入れないような工夫をしている。そうした少しの行動を続けるだけでも、みんながダム一つ分の水を守ることができるのではないだろうか。

水を守り、新鮮な水を保ち続けることで、農作物や魚も新鮮に育ち、人々のところへと届く。それは、水からの恩返しであると思う。良いことをすると良いことが返ってくるのは、人間の社会と少し似ているのではないだろうか。ある意味、水も一つの命として生きていると思う。命ある水に感謝の心を持ち、これから何年先も水を守り続けていきたい。

【水質の大切さ】

青森県 八戸市立是川中学校 三年 小林 千花

大学のゼミの研修旅行で、シンガポールから帰国した姉が言った。「向こうでシャンプーすると髪がきつしきしになって最悪だった。」同じ国内でも旅行に行くとき髪がきしむことがある。一体、何が違うのだろうか。

一般的には水の硬度が関係しているらしい。カルシウムやマグネシウムなど、ミネラル分の多い硬度の高い水だと髪がきしみやすいそうだ。姉が言うには、シンガポールは軟水で、衛生管理が行き届いており、世界でも数少ない水道水を飲むことができる国なのだそうだ。なのに、なぜ姉の髪はきしんだのだろう。

シンガポールの年間降水量は、日本の二倍近くもあり、貯水池も作られているという。しかし、国民の生活をまかなえるほど十分な量ではなく、さまざまな対策が練られているそうだ。たとえば、使用する水の半分以上を隣国マレーシアから九十九年の契約で輸入しているそうだ。さらに、家庭排水を消毒してリサイクルしているという。この消毒用の塩素や、虫歯予防のために水道水に入れたフッ素が髪をきしませる原因ではないかと予想されていた。

水道水が飲めるほど衛生管理されているとはいいが、日本人の感覚からすると、下水をリサイクルしたものを使っているのはあまり飲みたくないと感じるし、塩素やフッ素が入っているのはあまり美味しくないさそうだと思う。

ヨーロッパなど、土壌に石灰岩が多い国は地下水にミネラル成分が多く溶け出すため、硬度が高くなりやすいそうだ。一方、日本のように河川が短く流れが急だと、水が岩や土に触れる時間が短く、溶け出すミネラル分が少ないため、軟水が多いそうだ。

私の住む地域の水道水は軟水で、飲んでもおいしく、肌や髪が滑らかになる、とても恵まれた地域なのだという。当たり前に感じていたが、自分

の地域が恵まれているのだと知ると、嬉しく感じる。

日本では豊富にある良質な水道水は、世界的視点に立つと、とても希少な財産なのだ。よい水道水と言われているシンガポールと比べても、さらに恵まれている。その宝の素晴らしさに気づかずにいる日本人が多いのではないだろうか。

私は姉の話を通して、世界各地の水の違いに興味を持った。日本人は質のいい水が身近にあるからこそ水の大切さがわからないのではないだろうか。どれだけ日本の水が大切な財産かということを、みんなに伝えることが日本の水を守るために大事なのではないか、私はそう思った。

【向いていないかも、海外暮らし】

青森県 八戸市立是川中学校 二年 木村 真緒

私はこの夏ニュージーランドへ短期研修に行きます。現地のおいしい食べ物を食べたり海に行ったりすることが楽しみです。しかし、海外旅行について調べていくうちにある衝撃的な事実を知りました。それは海外の飲食店では水が有料で提供されるということです。日本の飲食店では席に着いてすぐ水が提供されます。さらに何杯飲んでも水の値段は無料です。私にはなぜ海外の飲食店ではお金を払わないと水が飲めないのか分かりませんでした。そこで私は、その理由を調べてみることにしました。

海外の飲食店では、メニューのソフトドリンク欄に「水」と記載されています。これは海外では水が他の飲み物と同等のものと捉えられているからです。海外ではいつでもどこでもおいしい水が飲めるとは限りません。日本のように蛇口から出た水をそのまま飲める国は十二か国しかありません。また、硬水と軟水があることも、初めて知りました。この二つの違いは、ミネラルの量だそうです。ミネラルの多い水が硬水で、日本で飲んでいる水は軟水です。ミネラルは体に良いものですが、飲み慣れていない日本人が飲むと、お腹を壊すそうです。さらに、世界では安全性は確保されていても味は苦い水の方が一般的です。

なぜ、同じ地球なのにこんなにも違うのか、調べてみました。すると、日本は川の流れが急で短いため、ミネラルを吸収しないうちに海までたどり着いていると分かりました。一方、他国の川は流れが緩やかなため海に行くまでに多くのミネラルを吸収してしまします。

また、浄水設備について調べてみました。安全かつおいしい水道水を提供するためには、水道設備が整っている必要があります。水道設備を整えるためには膨大な資金と高度な技術が必要です。そのため、国土の広い国や発展途上国では整備が難しいそうです。海外では簡単に水を飲むことができないこと、日本は国土に恵まれ、さらに設備的にもきれいな水を作

るために適した国であることが分かりました。

さらに、どのように海外で水を飲めばよいのか疑問を持ちました。調べると海外の水を飲むためには浄水フィルターを通すとよいことが分かりました。しかし、この浄水フィルターはまだ海外ではあまり知られていません。私はこの浄水フィルターが全世界に普及してほしいと思いました。飲料水だけではなく、洗濯や料理など日常生活に不可欠な水を常に安全な状態で使ってほしいからです。

世界の水について調べたことで、蛇口からいつでも安全でおいしい水が出てくることは当たり前ではないと分かりました。世界の川と比べて日本の川が短いことを、以前は残念に感じていたところがありました。長い川の方がすごいことだと思っていたからです。しかし今は日本の地形や自然を誇りに思っています。小さなことでも、自分ができることを探し、安全でおいしい水が生まれる日本の森や川をこれからも守っていきたいです。

【気遣いで変わる森の環境】 青森県

八戸市立是川中学校 二年 中居 れいな

皆さんは、ホタルを見たことがありますか。私が初めてホタルを見たのは、五歳のときでした。「ホタルの観察をしよう。」と言うイベントに参加をしたときです。その場所は山奥にありました。川や田んぼがあり、カエルの声しかない静かで真つ暗な場所でした。ホタルを見に行く前に、注意することが四つありました。捕らないでそつと観察すること。ホタル同士のコミュニケーションができなくなるため、光を当てないこと。川岸には卵があるかもしれないので、踏み荒らさないこと。最後は一番肝心なことですが、ホタルは昆虫なので虫除けスプレーを絶対にしていかないことです。このことから、ホタルはとてもデリケートな生き物だということが分かりました。

私が住んでいる所ではホタルを見たことはありません。遠くに行かないと会えないと思っていました。しかし急に、近くに住む祖父から、「ホタルがたくさんいるよ！見に来て。」と連絡がありました。祖父の家の前には木がたくさんあり、小さな小川があります。私が小さい頃見たホタルの数とは比べものにならないほど少なかったのですが、暗い中、一生懸命光っていてとても素敵な光景でした。祖父は「久しぶりにここで見たな。」と言っていました。母が幼い頃には当たり前のようにホタルが飛んでいたそうですが、二〇年ほど前には全く見なくなつたそうです。私はこんな近くでもホタルが見られるということに感動し、大切に守っていききたいと思いました。そして、なぜ急にホタルが現れたのか不思議に思いました。

ホタルはきれいな水が一年中流れているところに生息する生き物です。そのことから、何かが原因で水が汚れ、生きていけない環境になつたということが分かります。

小川の上の方には数年前から使われていない田んぼがあります。田んぼでは、米を丈夫に育てるためには、農薬を使わなければなりません。管

理をしやすくするために、除草剤も使うと思います。それらの薬剤が水を汚し、ホタルの生態を崩していたのではないかと思います。そして使われなくなつた今、元の自然に戻り、またホタルが戻ってきてくれたのだと思います。農薬を使うことによって、人は管理しやすく、質の良い食べ物が食べられますが、森にいる小さな生き物たちには生きにくかったのではないのでしょうか。

ホタルの数は減っています。それはきれいな水が減っていることを表しています。私は、少しでもホタルが生きていける環境が増えたことを嬉しく思い、きれいな水とホタルを守っていききたいと思いました。水を汚しているのは人で、きれいにすることができるのは人です。みんなの気遣いで変わる環境もあると伝えていければいいなと思いました。

青森県入選

【水への思い】

青森県 青森明の星中学校 三年 工藤 星空

みなさんは、世界で水道水が飲める国はいくつあるか知っていますか。正解は九カ国です。その中でも、アジアでは日本だけが水道水が飲める国とされています。しかし、なぜ日本は水道水が飲めるのでしょうか。調べてみると、安心して水道の水を飲むことができるようにがんばってきたる施設で働いている方たちの思い、施設の役割の大切さを学ぶことができました。それをみなさんに紹介します。

まずは、施設の役割です。日本には「水道法」というものが定められています。水道法とは、一九五七年に施行された法律で、「清浄」「豊富」「低廉」と言われる三原則があります。これには、質には「清浄」であること、量については「豊富」であること、対価については「低廉」であることを表したものです。

では本題の「なぜ日本は水道水が飲めるのか」という疑問から調べた結果を紹介します。水道水の水源は、地表水、伏流水、地下水がほとんどです。地表水とは気象条件などによって水質に変化を受けやすい、非常に不安定な存在です。伏流水は、濁りは少なく、水質が安定しているのが特徴です。地下水は、清浄で安定した水質が保たれているのが特徴です。これらの水は、着水井という場所へ行きます。次に沈殿池と呼ばれる原水に凝集剤を入れる所へ運ばれます。ろ過池へ行き、塩素注入、オゾン処理、粒活性炭処理、生物処理をします。それから配水池、配水管、貯水槽を通り、増圧ポンプ方式と呼ばれる方法で浄水された清浄な水を直接各戸へ給水します。そうして、やっと私たちの家の水道に水が届きます。合計約一〇回以上の工程を通り、私たちの家の水道に届いているのは、とても感心するなと思いました。

次に、私たち日本人が安心して水道水を飲めるようにがんばってきたっている方たちの思いを紹介したいと思います。「東京都水道局」で働く今井直子さんの記事を読んで私は「すごい」と思いました。今井さんは

高品質な水をつくる仕事、朝霞浄水場で働いているそうです。「おいしいね」と言っていただけのを励みに、どのような業務についても責任をもつて、二四時間、三六五日、安心、安全な水を届けることを最優先に、仕事に取り組んでいるそうです。当たり前のように聞こえるけど、難しいことなので見習いたいと思いました。

私は、今まで「水」についてあまり考えたこともなかったけど、今回調べてみてたくさん知らないことがあったんだなと思いました。でも知れることもすごくあって、楽しかったです。とくに、今井さんのように責任感を持ち、仕事をする、というのは、あまり経験したことがなかったので、すごく感動しました。また「水」について調べものをしてみたいです。みなさんもぜひ、調べてみてください。

青森県入選

【命の水】

青森県 青森明の星中学校 三年 杉木 聖奈

今まで「水」について深く考えた事はなかった。その理由は、いつも蛇口を回せば綺麗な水が出てきて、その水を飲んだり料理したりと当たり前にできているからだと思う。

私の父は、水道を引くため南スーダンに派遣された。そこでいつも汚い水を飲んでいたら聞いたことがある。飲料水を渡されても、水がすぐに無くなってしまうように、ペットボトルのキャップに水をくんで、少しずつ飲んだそうだ。

この話を基にして「水」について探っていこうと思う。

まず、アジアで水道の水が飲めるとされているのは、日本とアラブ首長国連邦の二カ国しかない。日本は、水質の管理技術が世界でもトップクラスで水が飲めるだけではなく、おいしさにもこだわって水質が管理されている。私が住んでいる青森市の横内浄水場は、一九八四年に、厚生省内の「おいしい水研究会」で「日本一おいしい水道水」と称えられた功績を残している。

次に「水道水」に含まれている成分についてだ。水道水には、ナトリウム、カルシウム、マグネシウム、カリウム、ケイ素などが多く含まれている。天然水やミネラルウォーターと違い、浄水過程で塩素が加えられているのが特徴となっている。塩素の摂取自体に問題はないが、塩素の臭い、いわゆる「カルキ臭」が気になる人も多いようだ。

最後は世界の水問題について調べてみた。二〇一九年において世界人口の半数が水道を使えるようになったと言われているのだが、もう半分の人々は、今も安心して飲める水を確保できていない状態で暮らしている。やむを得ず不衛生で汚れた水を使うことで、乳幼児が、汚れた水を原因とする下痢症で命を落としているそうだ。

日本にいれば当たり前のように手に入れることができる水なのに、世界規模で見ると本当に恵まれた環境だなと改めて感じる事ができた。

父を含め、水に関わる仕事をしている方々に感謝の気持ちでいっぱいになった。

明日も水を大切にしよう。

【水の大切さ】

青森県 青森明の星中学校 三年 野坂 美心

「水」と聞いてみなさんは何を思い浮かべますか？私は、あらゆる生命・地球にとって当たり前にある存在だと思っています。ある時、テレビで泥水を飲んでいる子供達の映像を見てショックを受けました。日本で当たり前前に飲んでいる水は、世界の一部の人々にとって、当たり前ではなく、特別なものでした。私にとって水は、蛇口をひねるといつでも飲み水が出てくるもの。そんな考えを打ち消す衝撃的な出来事でした。あまりにも不衛生なためその水を飲んだ人々がどうなっているのか気になり調べました。すると、下痢をしたり、命を落とす乳幼児は、年間三十万人、毎日八百人以上亡くなっているそうです。私の水の使い方振り返ってみると、反省点が多いです。お風呂の水を出したのを忘れて水をとめるのを忘れたり、シャンプーしているあいだにシャワーを出したままに置いて、お母さんに注意されても、あつたかくてそのままにすることが多いです。しかし、水不足で困っている世界の一部の人々がいると知った今、自分のできることを考えました。それは節水です。節水のために心がけることは、お風呂があふれないようにタイマーで時間をはかったり、シャンプーしているときはシャワーをとめたりすることです。

今自分たちがきれいな水を飲めるのは、雨や雪、それを浄水する人たちによってきれいな水が手に入るからです。その施設の人々に感謝しながら、限りあるあたりまえのようであたりまえでない資源を大切に使いま

す。また、農業にとっても水は必要不可欠なものです。祖父母が農業を営んでいて普段から、水の大切さを話しています。冬でも雪不足の年には、「野菜に水がいきたらない。」

と心配していました。その年は、例年に比べると野菜の収穫量が減り、収入もこれまでようにはいかなかったそうです。うちの畑や田んぼには自然の恵みである雨や雪が必要です。水がないと野菜が育たない、野菜が

ないと出荷できない、出荷できないと収入がないなど、人が生きていくことができなくなることにもつながります。

今回、水の大切さに気付くと共に生活にも大きく関わっていることを、より知ることができました。きれいな水を使いたくても使えない人たちのためにも、きれいな水を使えていることに感謝し、節水につとめ世界全体がよりよい方向に進んでいくことを願っています。

【ガーナと水】

青森県 青森明の星中学校 三年 松山 明伽音

私はチョコレートが好きです。そこでチョコレートについて調べてみることにしました。参考にしたのは明治ホールディングス株式会社です。

日本に輸入されるカカオの八割がガーナです。そもそも、チョコレートは、北緯二十度から南緯二十度、高度三十メートルから三百メートルなど限られた生育条件の中でのみ育つ希少なものです。その八割も占めるガーナですがさまざまな課題があるのだそうです。私はショックをうけました。例えば水道がない、水道がないことによる女性や子供の水汲み、汚染された水が病気の原因となる、さらには十分な教育をうけられずにいる子供がいるということでした。日本で、ましてやキレイな水が水道からでてくる環境にいる私と比べればあまりにも心が痛む内容でした。

その問題にたち向かった一社が明治ホールディングスでした。明治は二〇〇六年から「カカオサポート」というプロジェクトを始めました。活動内容はガーナに井戸を寄贈すること、チョコレート／アート教室の実施、苗木の配布、営農指導などです。井戸の設置はガーナや他の地域にも普及してきています。安全な水を手に入れられない人は六億六千三百万人にもおよびます。整備されていないところから水を汲む場合、泥や細菌、動物のふんが混ざっており下痢などで命を落とす乳幼児は毎日八百人以上にもなります。そのことを考えると井戸の普及が、どれだけ大切か、分かるような気がします。

ただ井戸の普及にはお金がかかります。中学生の自分がこのチョコレートのガーナに支援できることといえば募金だと思います。百円の募金でも子供一人分を救えるワクチンや井戸支援にもつながります。人々が身近なところから問題を感じることが大切だと思います。感じることでできれば知ることができ、知ることができれば協力することができ、募金なんて思っても知れません。私達が、できることといえながあるのでしょうか。お小遣いから百円でもすればどこかの誰かにつなが

るのです。その無理のない支援、背伸びしない支援でもないよりは、良いのです。私達は何事も深く考えるくせがあると思います。このお金が本当に届くのか、正当なものに使われているのかと。でもそんな事を考えていたら助けられるものも助けられないのではないのでしょうか。今このガーナの課題、水の課題について見てみるのも同じことが言えますか？。この問題を知ってその会社の製品を買うことも良いかもしれません。自分なりの社会貢献をもう一度考えてみてはいかがでしょうか。

青森県入選

【清潔な水の大切さ】

青森県 八戸市立是川中学校 三年 佐々木 陽大

日本は世界の中でも災害がとても多く起こる国です。中でも地震が多く起こります。災害が起こると大きいものだと、避難しなければなりません。避難場所では今のように蛇口をひねると新鮮な水が出てくるということは難しく、プールやバケツにためた雨水などを飲料水以外の用途に役立てる工夫があります。それから、人間は水を飲まないと生きることができません。災害時には一刻も早く避難所に運ぶことが重要です。食料もとても大事ですが、国土交通省の記事によると、「避難生活において、ライフラインの断絶により一番困ったのは水の確保であり、とりわけトイレの水が確保できずに困った。多くの被災者は、水が十分に使えないことによって、洗濯や風呂が制限された。」とあり、水は避難時には、たくさん用途に使われ、無ければたくさんの方が困ることが分かります。それから、この記事の表には「震災後、最も困ったのは生活用水」というように、「飲料水、食料、粉ミルクの確保」と「生活用水（トイレ、洗面、掃除など）の確保」がとても回答の割合が高く、水の確保がとても大切であり、人間の健康にも影響を及ぼしてしまうことも分かります。それから、私はテレビのニュースで「飲み水は一日あたり一リットルから二リットル」が目安だということを知りました。しかし、避難所にはたくさんの方が避難してくるため、その分、たくさんの方の水の確保が必要です。それから、ただでさえ避難する人達には不安があるというのに水が届くことが遅れてしまうことは一番良くないと思います。

今年の一月一日、最高震度七を記録した「能登半島地震」でも断水など水に関係する被害が多く出たそうです。私はこの地震についてももう少し深く調べてみることにしました。すると、興味深い記事を見つけました。そこには、「断水でも水が使える「井戸」活躍」とあり、読んでみると、「地震後、能登の水事情は深刻だ。震災から二カ月以上がたつが、八日現在、石川県では輪島、珠洲、能登、七尾、内灘の三市二町で計一万六七三

〇戸が依然として断水している。」とあり、断水の被害がとても大きいことが伝わりました。そして、次の文に「そんな中、もともとある井戸を使って被災直後の苦境をしのいだ人もいる。」とあり、確かに私の家族が東日本大震災のときに家にある井戸水を洗濯などに使用していたと聞きました。

私は、震災時にこのような井戸水のように飲料水もいざとなった時に使用できるような体制をとることができるようになってほしいと思います。きれいな清潔な水は確実に命を繋いでくれると思います。大きな震災の被害を受けた私達だからこそ伝えていかなければならないと思います。

青森県入選

【大切な資源の水】

青森県 八戸市立是川中学校 三年 中居 みやび

みなさんは、水を使わない日がありますか。飲んだり、トイレを流したり、手を洗ったり、温かいお風呂に入ってホッとしたり、毎日あたりまえのように使っています。普段なにげなく使っている水だからこそ、今まで深く考えたことはありませんでした。この作文を書くことになり、いろいろなことを調べてみたら、たくさん問題があることがわかりました。

一つ目は、豪雨による洪水や土砂災害です。日本は世界の中でも自然災害が多い国で、その被災規模は、年々増加していき、河川の氾濫や土砂災害が相次いでいます。二つ目は、雨や雪が降らないことにより起こる水不足、渇水です。日本は水が豊富な国ですが、気候変動により渇水が生じることがあります。その原因は、日本の地形にあり、日本の河川は他の国の河川と比べると短く、急な河川が多いです。そのため、水の流れが速く、水の安定確保が難しいということです。三つ目は、水質悪化です。河川や湖の水質は、戦後の急速な上下水道の整備や配水規制の強化によって全体的に改善傾向にありますが、ゴミの不法投棄や施設の老朽化によって水質が悪化する可能性があります。また、上下水道の整備に取り組む建設作業員の高齢化や人手不足になっていることです。

その中で私が気になったのは、水質悪化についてです。この問題が起こる原因は、工場などから出る産業排水や、畜産などからの排水のほかに、台所やお風呂、トイレなどの日常生活で使われているものから出される生活排水です。私たちが一人一人に出す、生活排水の汚れは、全体の約六十七パーセントを占め、とくに台所からの汚れが多くを占めています。

生活排水から出る影響は、沿岸域におけるアサリなどの魚介類の減少といった漁業被災を引き起こしたり、水生生物の生きる場所や命を奪い、生物多様性を阻害したり、水俣病やイタイイタイ病などの水因性の病気が多発したりし、人間にも被害をもたらします。

このような影響が進んでいくと、悪臭の発生、水生生物の生育環境の悪

化、さらに無生物化等生態系への悪影響、工業、農業、生活水利用も不適合となるなど、生活や産業経済活動への支援と環境破壊などをもたらします。また、人々の健康もおびやかす、水質悪化が進むことで不衛生な水環境へつながり、汚染された水を飲むことで、健康被害を引き起こすことがあるのです。

これらを防ぐために、食べ残しを減らしたり、油汚れをしっかりと拭き取ったり、洗剤を使いすぎたりしないということを意識することが大切です。

今、私たちが安心して生活できているのは、水が綺麗で、安全だからです。これからも水に感謝して生活していこうと思います。

青森県入選

【水が教えてくれたこと】

青森県

八戸市立是川中学校

三年

前田

美咲

水は私にとってなくてはならない存在だ。毎食必ず水を飲み、運動後もスポーツドリンクより水を飲む。運動後の水は格別においしい。風呂やトイレで使うのはもちろんのことだが毎日のように口にする私にとっては本当に大切な存在である。だがある出来事によって水に対する考えが変わった。

一月一日、家族とたわいもない話をしていたとき、衝撃的な映像を目にした。それは能登半島地震だった。マグニチュード七・六、最大震度七の大きな地震。映像とともに東日本大震災を思い出した。当時は一歳で、ほとんど記憶には残っていないが、家族からどんな地震で、どんな被害があったのかを聞いていたのでとても怖かった。石川県の人たちは大丈夫なのかを考えていたためその日は中々眠りにつくことができなかった。

次の日、徐々に被害の状況を知ることができた。そんな中、調べていくうちに私はある文字が目にとまった。それは「断水」。その文字を見た瞬間、私は頭の中が真っ白になった。水が止まったらどれだけ不自由なことか。今まで生活の中には必ず手に入って使えらると思っていた私の考えはとても恥ずかしいことだと思った。

今までの生活を振り返ってみると、改善しなければならぬことが見つかった。無駄遣いだ。手や皿を洗うとき、「少しくらいいいや。」と思い、出しっぱなしにしている自分がいた。本当に恥ずかしい。なぜ今までこんな生活をしていたのか。石川県の人々、被災した人たちに申し訳ない気持ちでいっぱいだった。

水は必ず手に入るものではない。今回の震災以外にも水に困っている人たちはたくさんいる。世界全体で二十二億人が安全に管理された飲み水を使用できず、四十二億人もの人がきれいなトイレを使うことができていない。このような人々を救うためにはまず自分が過ごしていく中で節水することが大事だと思う。また、お店などに置いてある募金にも積

極的に参加していくべきだと思う。このように、まずは自分が意識をして変わらなければ世界は変わらない。

私に間違っていることを教えてくれた水。大切なことは何かを教えてください、行動に移すためにヒントをくれた水。そんな水をこれからも大切にしていき、共に生きていきたい。

私は水が大好きだ。

青森県入選

【水とは何か】

青森県 八戸市立是川中学校 三年 若松 来実

私は水とは何かと考えました。私にとつての「水」とは、「透明で匂いがしないもの」です。

しかし、世界には、私が思っている水とは違う、水とは分からない水を飲んでいる人々がいます。このことから、私は二つのことを思いました。

一つ目は、「日本がどれだけ衛生環境が良いか」ということです。私たち日本人は、蛇口をひねっただけできれいで衛生的な水を確保することができます。まず、雨や雪が森林、水源林にふりそそぎ、地表を流れたり、地下にしみこんだりしながら川に流れます。次に、川の水はダムや湖にためられ、取水設備から取り入れます。この水は、導水管を通って浄水場に運ばれて水道水がつくられます。水道水は、いつでも使えるように一度、配水池でためておきます。配水管を通って、私たちの家庭に届けられます。ここで終わりではなく、使った水は下水管を通って、浄化センターへ送られ、きれいな水にします。この水は川に戻され、川の水はやがて海に流れ、海の水は蒸発して雲をつくり、雨や雪をふらせます。このような整った設備たちによって出来ています。

二つ目は、「全ての国が衛生的な水を確保できていないこと」です。昔に比べれば、世界は進化してきましたが、このことはまだ解決ができていない状況です。例えば、水を確保するために何時間もかけて川の水を得ますが、とても飲める水ではないことです。この川の水によって様々なこともおきます。一つ目は、病気などに感染しやすくなることです。特に子どもが多く最悪な場合亡くなってしまうことです。どれくらいの人々が汚い水によって亡くなっているかというと、年間約百十八万人だということです。二つ目は、時間がなくなることです。世界中の女の子や女性たちが水汲みに費やす一日当たりの時間の総計は約二億時間ということなのです。これにより未来が狭くなってしまうのです。

このことから、日本は衛生的な水を確保することは簡単ですが、世界の

中には衛生的な水を確保することが難しい国もあるのだと思い、無駄のないように大切に使うことや募金を行うことが、今出来ることだと私は思いました。

【水の重要性】

青森県 八戸市立是川中学校 二年 水合 凌徠

もし、水がなくなったら私達はどのようなのでしょうか。

私達人間の六十パーセントは水でできています。人間は体の中の水分が十パーセント失われると命の危険な状態に陥ります。人間は水がないと生きていけないのです。

そして、水がなくなってしまうとお風呂に入れなくなったり、食器を洗えなくなったり、トイレが流せなくなるなど日常生活や衛生面などに問題が起こります。

今年の一月一日の能登半島地震のニュースをテレビで見ると給水車にたくさんの方を作って並んでいたりと、

「今一番困っている事は何ですか」

のインタビューの答えでは水が無いという事を言っていた人が多くて印象に残りました。また、植物が育たなくなると、食べる物が無くなってしまいます。

私はインターネットを使って水について調べてみました。

地球の表面の三分の二は水でおおわれていますが、そのうちの約九十七・五パーセントは海水で、人が使用できる淡水は二・五パーセントで人間が使える再生可能な水資源はたったの0・0一パーセントしかないという事を知り、とても驚きました。

さらに、温暖化により、川を流れる水の量が減少したり、水質が悪化したりするなど、さまざまな問題が起こっているという事を知りました。

だからこそ、私達一人一人がよごれの原因となる生活排水をなるべく出さないようにすることが大切です。また、洗剤を使い過ぎない、調味料や残ったジュースなど、よごれの元を流さないといった、よごさない工夫だけでなく水を流しっぱなしにしない、水を出し過ぎないなど、水をむだにしない工夫も必要です。

蛇口を捻るといつでも出てくる水ですが水は無限にあるものではなく

有限である事を理解し、普段の生活の中でも手洗いやお風呂のシャワーは出しっぱなしなどせず、今できる事を始めて節水を意識して水を大切に使うように心がけていきたいと思います。

【水の惑星】 青森県 八戸市立是川中学校 二年 風張 優吾

私たちが暮らしているこの地球は、「水の惑星」と呼ばれている。その理由は、その名前のとおり、地球の表面積の約七〇パーセントを水が占めているからである。しかし、すべての水を利用できるわけではなく、人間が利用できるのは、水全体の約〇・〇一パーセントしかない。地球の人口が急増している近年、生活が豊かになるにつれて、飲み水だけではなく食糧生産や工業生産に必要な水も増加し、このままでは二〇四〇年までに水不足になる国が今より二〇か国は増えるだろうと言われている。水がたくさんあるから「水の惑星」と呼ばれているのに、水不足になってしまったら、本当に「水の惑星」と呼べるのだろうか。私は呼べないと思う。

「水の惑星」と呼び続けるために、私たちにできる、水不足の解消方法を調べてみることにした。すると、「普段の生活から節水を心がける」や、「生活排水の汚れを極力減らす」、「寄付する」という三つのことができた。蛇口をひねれば、当たり前のように水が出てくる現代、日本人はなんのためらいもなく水を使っているところも多いだろう。手を洗う際や歯を磨く際、水を出しっぱなしにしないようにしたり、食器洗いをする際、スポンジでお皿を洗っている間は水を止めるようにしたり、油污れやお皿に残ったソースなどをそのまま流すのではなく、新聞紙やキッチンペーパーなどで拭き取ってから洗うようにしたりし、すべての日本人が一日一リットルの水を節約できれば、毎日一億二五〇〇万リットルも節約できるらしい。他にも、ユニセフに三〇〇〇円寄付すると、汚れた水を安全な飲み水にする浄水剤七〇二五錠（三五一二五リットル分）に変わるそう。

このように、水不足を解消するために、私たちができることはたくさんある。これからの人生、なにか自分にできる水不足の解消方法がないか調べ、それに取り組み、地球がこれからも「水の惑星」と呼ばれ続けることが大切だと思う。